

平成 29 年 2 月 1 日

各 位

(公財)日本ゴルフ協会
規則・競技推進本部
本部長 佐野 文 範

(一社)日本ゴルフツアー機構
副会長 大西 久 光

(一社)日本女子プロゴルフ協会
副会長 鈴木 美重子

(公社)日本プロゴルフ協会
PGA ツアー競技管理委員会
委員長 植田 浩 史

「予備グリーン」の取り扱いについて

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度 JGA, PGA, LPGA, JGTO は 2017 年シーズンより予備グリーンの規則上の扱いを統一することに合意いたしました。予備グリーンは日本の慣習やコース管理等の理由により様々な経緯、意見があることによりその扱いが異なる場合があり、結果としてプレーヤーを混乱させることがしばしばありました。私たちはその弊害を取り除くこと、そして世界共通である規則本来の扱いとすることを目的に協議をし、各団体の主催競技等においては原則として予備グリーンは規則定義「目的外のパッティンググリーン」として扱うことにいたしました。詳細については別紙をご参照下さい。

敬具

「予備グリーン」の取り扱いについて

最初に、現在の規則の解釈とローカルルールについてご説明させていただきます。

日本国内には 1 ホールに 2 つのパッティンググリーンがある場合があり、使用していない方を所謂「予備グリーン」と呼んでいます。予備グリーンの規則上の取り扱いには以下の選択肢があります。

- ① 規則の定義のとおり「目的外のパッティンググリーン」として扱い規則 25-3 を適用する。
- ② ローカルルールで「プレー禁止の修理地」とみなし、規則 25-1 を適用する。
- ③ ローカルルールで「スルーザグリーン」とみなし、あるがままにプレーする。

②と③の選択肢については日本のこれまでの慣習やコース管理等に配慮するため、①の規則の定義通りに扱うこととは別にローカルルールとしてその制定を認めているものです。

今回の私たちの合意は上記①の解釈に統一するというものです。この統一の目的は本来の定義どおりの扱いにすることはもとより、競技によって異なった扱いをすることによってプレーヤーが誤解をしてしまい不要な罰を受けてしまうことを避けることにあります。

球が目的外のパッティンググリーンにのった場合は規則 25-3 が適用され、プレーヤーは**必ず罰なしにこの規則に基づいた救済を受けなければなりません**。救済の手続きは、ホールに近づかず、球が目的外のパッティンググリーンからの障害がなくなる最も近い点(救済のニヤレストポイント)を決定し、その地点から 1 クラブレンジス以内でホールに近づかない所にその球をドロップしなければなりません。この規則 25-3 で重要なことは、スタンスが目的外のパッティンググリーン上にあるということだけでは障害とはならず、**球が目的外のパッティンググリーンにのった時のみ障害が生じ**、救済を受けなければならないということです。

なお、この合意は 4 つの団体が主催する競技における扱いに関するものであり、規則そのものが変更されたわけではなく、上記②③のローカルルールを制定することは今後も認められます。

【ご参考】

定義「目的外のパッティンググリーン」(Wrong Putting Green)

「目的外のパッティンググリーン」とはプレー中のホールのパッティンググリーン以外のすべてのパッティンググリーンをいう。委員会によって別の規定が設けられている場合を除き、目的外のパッティンググリーンという語の中にはコース内の練習パッティンググリーンや練習ピッチンググリーンを含む。

規則 25-3. 目的外のパッティンググリーン

25-3 a 障 害

球が目的外のパッティンググリーン上にある場合、目的外のパッティンググリーンによる障害が生じたという。プレーヤーのスタンスや意図するスイングの区域が妨げられても、それだけでは規則 25-3 にいう障害には当たらない。

25-3 b 救 済

プレーヤーの球が目的外のパッティンググリーン上にある場合、プレーヤーは球をあるがままの状態プレーしてはならない。プレーヤーは、罰なしに、次の救済を受けなければならない。

プレーヤーは球を拾い上げて、(a)救済のニヤレストポイントから 1 クラブレンジス以内で、(b)救済のニヤレストポイントよりもホールに近づかない所にその球をドロップしなければならない。救済のニヤレストポイントはハザード内やパッティンググリーン上であってはならない。救済のニヤレストポイントから 1 クラブレンジスの範囲内に球をドロップする際、球は目的外のパッティンググリーンによる障害が避けられ、しかもハザード内でもパッティンググリーン上でもない所のコース上に直接落ちなければならない。

規則 25-3 により拾い上げた場合、球はふくことができる。

規則 25 の違反の罰は

マッチプレーでは そのホールの負け

ストロークプレーでは 2 打

以上